

日高地区 新規就農者紹介



【就農のきっかけ】

前職は、IT企業でシステムエンジニアをしていました。入社後3年ほど経ったところにデスクワークのみの仕事が定年まで続くことに対する不安が大きくなり、何か体を動かしながらできる仕事はないかと漠然と考えていました。

そんな時、地元大阪で開催された北海道就農フェアで、「単身かつ自己資金が少ない」という条件でも受け入れ可能な自治体があることを知りました。日高町が受入れ可能だったこと、町職員が親身になって対応してくれたこと、また農業をするなら北海道で!との思いが強かったこともあり、日高町で就農することに決めました。就農までの3年間は、地域おこし協力隊として研修することができる制度、ハウス設備を含む賃貸借料金が低く初期投資が抑えられたこと、これらの制度がとても良かったと思います。(2019年来道。)

2026年7月取材

(日高町)

大橋 正規さん

就農年:2022年4月

経営形態:施設園芸

作物:ミニトマト、アスパラガス、ニンニク

経営規模:ビニールハウス11棟 55アール

労働力:本人のほかパート従業員(最大7人)

出荷先:所属JA

【移植前のミニトマトの苗】 【芽かき作業中の大橋さん】 【着果前のミニトマト】



【就農して良かったこと・苦労したこと】

地域おこし協力隊としての3年間は、JAもんべつ研修施設でJA職員や先輩生産者の指導のもと、アスパラガス、ミニトマトの生産・管理の実践(研修)でした。当時の農業に関する感想としては「こんな感じか・・・」くらいなものでした。(笑)

実際に一人で農作業を初めてみると、作業手順が分からないことや人手不足により生育過程での異変(病気等)に気付くのが遅れるなど収穫量は平均の半分程度となりました。

人手不足への対応として、株間を広くして移植するなど芽かき作業の省力化を図りながら収量確保に取り組み、3年かけて自身の栽培スタイルを確立しました。

【地域との関わり合いの重要性】

農業改良普及センター主催の勉強会等に参加するなど専門家や他農家との交流等を通して、分からないことや不安なことがあれば相談をしています。特に生育過程での水不足や病気等による対処方法などは、先輩農家に相談することが多いので日頃からの付き合いが本当に大事なことだと感じています。

またJA青年部の活動を通じて、除雪の手伝い、農産物販売会や小学生の総合学習、大学生の農業体験の受入れなどを行っていますが、これらの活動が農業に対する理解につながっていると感じています。

【地元小学生の総合学習】



【就農を目指している方へのアドバイス】

農家になりたい(夢・あこがれ)や現在の生活を変えたい(ストレス等)等理由は人によりさまざまだと思いますが、決断する勇氣を持つことも必要です。

初期営農資金がなくても国の制度や地域おこし協力隊制度等の活用により就農は可能なので、自治体等の新規就農に関する情報収集をすることをお勧めします。

農作業、品質管理面などでは、うまくやっている人に聞くことが一番勉強になります。聞いたり教えてもらえたりできる人づくり・人付き合いが大切です。

【JA青年部農産物販売会】



【活用した事業等】

- ・農林水産省「就農準備資金・経営開始資金」、「経営発展支援事業」
- ・日高町「日高町新規就農者促進対策事業」

【生産活動を支える愛機】



防除用カート ↑

↓ トラクター

← 肥料散布機

【収穫直後のミニトマト】



【今後の展望】

主力のミニトマトの栽培面積について、省力化の工夫を行いながら倍増していきたい。(30アールから60アールへ)

ミニトマト、アスパラガスの収穫と重ならない時期に空いた土地を有効活用し、ニンニク(露地)の栽培していきたい。